

## 大石の沼

大野町民にあまり知られていない一つの沼がある。

私の子ども時代（大正後期～昭和初期）、祖父母から大石の沼について聞かされた。水田と用水は切り離せないものだが、明治以来用水が不足がちになり、昭和に大沼導水が完成するまではいわゆる“水争い”が絶えなかった。大野平野一面水田になるに従って、大野川だけでなく久根別川も利用され、更に大沼の水を流下させる計画も検討された。

そんな中で、毛無山中腹、標高約400メートルにある約20アールの沼を、市渡農民らが目をつけ用水工事に掛かった。祖父も参加して幾日も掛かり、山に水路をつくり沢から大野川へ落そうとした。あと一日で完了というとき、激しい雷雨が続いた。

農民らは、この沼に竜神がいて、水が流れてしまえば自らの棲む場所がなくなるので怒ったのだ、ということで工事を中止した。二ツ森酉蔵さんの言によれば明治10年頃といわれる。

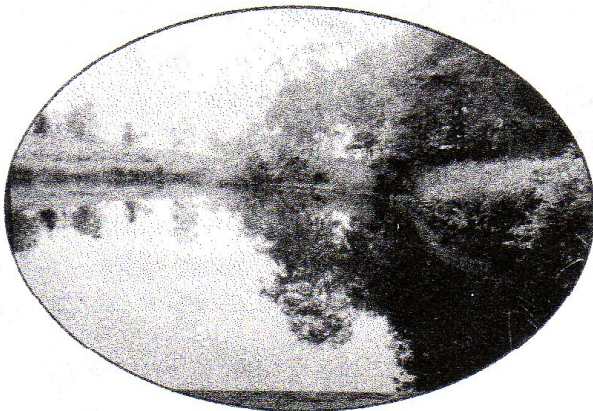
大石の沼の大石とは、沼の沢が続く大野川にある大きな石のことで、大石の沼と名付けられた。

以前この沼に大きな魚が泳いでいたという人もいる。現在は、沼の周りに根曲がり竹が茂り水芭蕉が咲いている。水路の堀の跡が残っている。

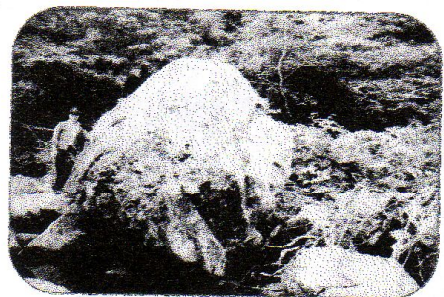
語り；市渡 花巻源一郎 聞き取り；木下寿実夫

市渡交差点から江差山道（国道227号）へ向け約10.2キロメートル進み左側の  
大野川吊橋を渡り毛無山7合目付近

◆調査 昭和58年5月8日 9:00～12:00  
花巻源一郎、中村実通、佐賀由光、三上敏一、木下寿実夫、  
高嶋 章、大谷高校生



神秘的な大石の沼



いわれになった大石